

コロナ禍の世界

横浜市駐在員レポート

21

ドイツの新型コロナウィルス警戒レベルが、一段上がった。都市部を中心に感染が急速に拡大していることがその背景にある。連邦政府は、人口10万人当たりの感染者数が過去7日間で50人を超えた場合、その地域を市町村単位で国内リスク地域(以下、対象地域)に指定している。第1波が去った5月以降、対象地域は大規模クラ

ンクフルトなど大都市は軒並み含まれている。1日当たりの感染者数は23日に約1万5千人を記録。春先のピークを上回り、連日のように過去最高を更新している。現状を踏まえ、各州政府は屋外でのマスク着用義務、飲食店の午後11時以降営業禁止、公共の場での飲酒禁止など、規制を強めている。

フランクフルト



緊急テレビ会議に参加するフェルトマン市長。2019年12月に横浜を訪問している。(フランクフルト市オラフ・シール氏提供)

警戒レベル一段上がる

スター(感染者集団)発生エリアなどに限定されてきたが、10月に入り状況が劇的に変わった。

ロベルト・コッホ研究所によれば、24日現在、対象地域は国内251カ所に上り、ベルリン、ミュンヘン、

9日には、メルケル首相が国内11大都市の市長と緊急テレビ会議を開催。「冬の感染拡大を防ぐために、今対処することが必要」と結論を呼び掛けた。フランクフルト市のフェルトマン市長は「2時間以

上、感染拡大の防止策を議論した。激しく建設的な議論だった」と話し、参加者全員が「再ロックダウン(都市封鎖)を避ける必要があることに同意した」と語った。コロナ禍で初めての冬が(横浜市フランクフルト事務所長・玉井 猛)